那須与 伝承館通

〈第 14

回

○与]。余]表記に関する覚書

当主(資興) る資料の中から、 に関する覚書を紹介します。 本品は、 今回は那須与一 いか考察した覚書です 江戸時代後期の那須家の が「那須与 一」と「余 与は伝 - sat 一」のどちらが 」の表記に 余り、根では、一表記の

平家物語』の諸本や『吾妻鏡』へいけものがたり 東

において展示されています。

ぜひ 伝承

現在、

この資料は那須与

源氏の一族)の記述、. とみられます。 士)の例まで引いて考察しています 明確な結論は出せなかったも や真田与一(相模国の)をならには浅利与一(甲)

武 斐い

問い合わせ

覧ください 那須与一伝承館 (20)0220

兴一年 京 かーラナーるとなる 年亦東陸東是蘇 既一してなりてん んろもしむってし 文例 杨声等十 七男一一五人 年ありのでかちを 一十一子なを

子故余一と用申候儀不分明候、

とも だいじゅっし とも だいじゅっし

系図相考見申候へ共、 余一ヲ十一子と世よいち 東鑑・系図、

余一とも与一

とも両様

人雑り申候、

通用と相見へ申候、

候、真田・浅利・

那須ともニ、平家・

平家物語等、

と御座候 と有之

長門本平家物語・

南都本

其外之古本共二与

与一・余

古本平家物語皆

よいちひょうき かん おぼえがき 与一·余一表記に関する覚書(那須家所蔵)

説ヲ引候て有之候、

此一

甲候哉、不存のといっせつとでんでんだが、不存のとでんでんだが

何ソ系図等

二も出申候哉、

百将伝抄余五将軍平惟茂之伝ニー

ヲ余之字用申候事ハ、

是又例二難罷成候、

、林学士之日本 はやしがくし の に ほんばやしがくし の に ほんばやしがくし の に ほん

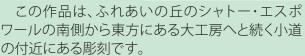
候、已上、

七月六日

市内で作られた作品とその作者



このコーナーは、「那須野が 原国際彫刻シンポジウム」で 公開制作、設置された作品と その作者を連載で紹介します。



・見すると、人間の上半身をかなり簡略化して

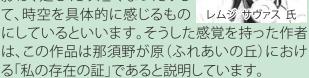


板状にしたよ うなものが直 立していま す。その元に は四角い台 座があって、 そこにもまる でその影で あるかのよう に、同じ形を したものが浮 き彫りにされ ています。

Nasunogahara'da bir Zaman (那須野が原のひと時)

レムジ サヴァス トルコ共和国 2001年

作者は、「時空」に強い関心を 寄せていました。それはずっと 昔から一本の線で結ばれてい るが、抽象的な存在。たとえば 影は、延びたり短くなったりし



作者は、1947年トルコ共和国生まれのレムジ サヴァス氏。地元の教育大学を卒業し、後にパリに 5年間留学。1985年にはトルコにある国立ハジェ

設置場所案内図(★印)



テペ大学の彫刻科の講 師に、後に教授となりま したが、2006年に退職。 首都アンカラにおける 彫刻展のほか、フラン ス・ハンガリー・イラク などの国際展覧会にも 参加。近年では金属を 用いた作品が数多く見 られます。

■問い合わせ

文化振興課文化振興係 囮(23)8718